



あられ・おかきで楽しい時間を演出 ものづくり補助金で効率化とブランドカアップを図る

有限会社 服部製菓舗 [三重県桑名市]

「二段仕込み」という、2度の味付けと長時間乾燥による、しつかり味付けされたおかきが売れている。三重県桑名市の有限会社服部製菓舗が製造する人気シリーズで、地元での大ブレイクをきっかけに、首都圏やネットでの販売も好調だという。味に妥協しない服部一成社長の、つくり手としてのこだわりが伸ばした業績を支えているのが、「ものづくり補助金」だ。増産体制を整え、ブランド力を高め、ひいては経営者の夢を叶えるため、大きな役割を果たしている。



7人の師匠からおかきづくりを学ぶ

昭和23年、愛知県名古屋市中で創業した服部製菓舗。同43年には三重県桑名市多度町に工場を移転し、平成8年、有限会社に改組した。現会長である父の時代には、ブルーン、いちじくなどのドライフルーツや、珍珠、ひなあられ、小粒あられなどの製造・販売を手がけていた。

百貨店関係の仕事を経験し、服部社長が家業に入ったのは平成6年、21歳の時だ。入社後、自社商品を東京で売ることが夢だった両親の思いを汲み、まず、販路開拓の旅へ。夜行バスで通い、先輩宅で世話になりながら、営業活動を続けた。努力が実り、少しずつ卸先が増えていった。他方、工場では製造方法を学び、会社が休みの日には他社へ向かい、素材・味・技術などを研究した。「5人+両親。7人の師匠に育てられ

ました」という服部社長は食欲に研鑽していた。落花生とあられを水飴と醤油で甘辛く仕上げた「潮餅ピーナツ」。これもひとりの師匠から伝授されたものだ。会社の雇用に際し、「看板商品を残したい」という師匠から、思いも一緒に受け継いだ。その教えどおり、現在も、延ばし、割りとも、すべて手作業で行っている。

二段仕込みで味の接点、を合わせる

おかきづくりの腕に自信をつけた服部社長は、次々と新商品を生み出していく。幸い、同社には、珍珠づくりで蓄積されたノウハウがあった。素材の組み合わせ、香辛料との相性、下味と調味料が味を引き立て合うタイミングなど、美味しさを最大限に引き出す秘意だ。その、味の接点、を、応用し始めた。

最大のピンチが道を拓いた!

ところが、やはり高すぎて売れなかった。「それも長い間、売れませんでした。諦めはしなかったけれど、少しやけくそになっていたか。でも、売れなかったからこそ、逆に挑戦ができました」。淡々と語る服部社長だが、この間に260種類もの商品をつくり、平成17年6月には代表取締役就任。7年前には工場も建てた。さらに、23年の東日本大震災は、関東地方に多くの顧客を持つ同社にも大きな不安を与えた。「物流の混乱で1週間ほどは仕事にならず、工場も動かせなかった。心配顔の従業員たちに声をかけ、何をやるうかと考えたんです」。

結論は「小売りをやること」。事務所の一部を直売所にした。すると、服部社長のこだわりのおかきの数々が飛ぶように売れ始めたのだ。メディアにも露出し、入づてに聞き及んだ口コミ客の車が団体で訪れるようになっていた。そんな噂を聞きつけたのか、関東地方の高級スーパーからもオファーがあり、商談がまとまった。

製造工程を短縮するためのものづくり補助金を活用

二段仕込みシリーズの人気に火を付けたのが、「二段仕込みオリブ油」。2度目の味付けでオリブオイルと塩をかけるというが、甘さとしよっぱさが絶妙なハーモニーを奏する逸品だ。だが、「二段仕込みしみ煮」「二段仕込み梅こんぶ」とともに、製造が追いつかなくなってい

一番人気の「二段仕込みオリブ油」。下味の甘だれとオリブオイルと塩のバランスが絶妙

補助金を活用して導入した「生地乾燥機」によって、乾燥工程が従来より大幅に短縮した



●「補助金を活用させてもらうことで追い風に乘れました。商工さんにはいつも助けていただき、感謝しています」と、服部一成社長
●包装作業風景。手前にある「三方シール自動包装機」も大活躍

た。乾燥だけで13日も要する製造方法を見直す必要があった。そんな時、「ものづくり補助金」を助めてくれたのが桑名三川商工会だ。

その支援によって25年度、従来の自然乾燥と同様の品質を保てる生地乾燥機の導入と、より効率的に袋詰めできる三方シール自動包装機購入に、同補助金を活用できた。その結果、乾燥工程を6日間に短縮でき、天候に関わらず、安定した製造が可能になった。包装工程でも、従業員の負担軽減、コスト削減につながった。

補助金でブランドカをアップ

次の課題は、繊細な塩梅を要する味付けや食感をさらに高め、独自性とブランド力を高めることだ。そのため、商品力を決定づける焼成・味付けの2工程に手を入れる。26年度ものづくり補助金では、この部分を大幅改良することを柱にした事業計画が採択された。

5月には、現在建設中の新工場に同補助金を活用した大型反復焼成機と、自動混合味付け機を導入する予定だ。2階はシニア向けの仕事場にしたいという構想も持つ。そんな地域に根ざした「たくましく優しい会社でありたい」。それが服部社長の目標である。

「ものづくり補助金」

新製品や新サービスの開発、生産プロセスの改善、新しい販売方法の導入などの事業革新に取り組む費用の2/3、上限1000万円を補助する。